

生活習慣病検診等管理指導協議会の活動状況の調査

【調査の目的】

高知県が、各市町村及び県全体の精度管理において、適切なデータ把握や体制整備を行っているかどうかを評価する目的で、高知県自身が行う、自己点検のための調査です。

【調査年度】

今回は平成 23 年度分のがん検診に関する調査の結果を示します。

【調査方法】

胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんのがん検診チェックリスト【都道府県用】の各項目に関して、それを遵守しているかどうかを確認し、ホームページ上で公開します。

注意：都道府県内の一部でも非遵守であれば都道府県としては非遵守となります。

◆ 調査 1-1：都道府県チェックリストの遵守状況調査

チェックリスト項目	回答欄				
	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
1. 生活習慣病検診等管理指導協議会の組織・運営					
(1) がん部会は、保健所、医師会、がん検診関連学会に所属する学識経験者、臨床検査技師等の、がん検診に係わる専門家によって構成されているか	○	○	○	○	○
解説：全ての関係者が揃っているのが望ましいが、少なくとも保健所、医師会の参加が無い場合は×					
(2) がん部会は、市町村が策定した検診実施計画/検診体制等について、検診が円滑に実施されるよう、広域的見地から医師会、検診実施機関、精密検査機関等と調整を行っているか	○	○	○	○	○
(3) 年に1回以上、定期的のがん部会を開催しているか	○	○	○	○	○
(4) 年に1回以上、定期的に生活習慣病検診等従事者講習会を開催しているか	×	×	×	×	×
解説：生活習慣病検診等管理指導協議会から委託を受けて外部の機関（例えば対がん協会支部など）が行っている場合は○					
2. 受診者の把握					
※肺がん検診では、全項目で「胸部 X 線受診者・喀痰細胞診受診者」別に把握・集計できていれば○					
(1) 対象者数(推計を含む)を把握しているか	○	○	○	○	○
(2) 受診者数を把握しているか	○	○	○	○	○

(2-1) 受診者数(率)を性別・年齢階級別に集計しているか	○	○	○	○	○
(2-2) 受診者数(率)を市町村別に集計しているか	○	○	○	○	○
(2-3) 受診者数を検診実施機関別に集計しているか	○	○	○	×	×
(2-4) 受診者数を過去の検診受診歴別に集計しているか ^{注1)}	○	○	○	○	○
3. 要精検率の把握					
※肺がん検診では、全項目で「胸部 X 線受診者・喀痰細胞診受診者」別に把握・集計できていれば○					
(1) 要精検率を把握しているか	○	○	○	○	○
(1-1) 要精検率を性別・年齢階級別に集計しているか	○	○	○	○	○
(1-2) 要精検率を市町村別に集計しているか	○	○	○	○	○
(1-3) 要精検率を検診実施機関別に集計しているか	×	×	×	×	×
(1-4) 要精検率を過去の検診受診歴別に集計しているか ^{注1)}	×	×	×	×	○
4. 精検受診率の把握					
※肺がん検診では、全項目で「胸部 X 線受診者・喀痰細胞診受診者」別に把握・集計できていれば○					
(1) 精検受診率を把握しているか	○	○	○	○	○
(1-1) 精検受診率を性別・年齢階級別に集計しているか	○	○	○	○	○
(1-2) 精検受診率を市町村別に集計しているか	○	○	○	○	○
	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
(1-3) 精検受診率を検診実施機関別に集計しているか	×	×	×	×	×
(1-4) 精検受診率を過去の検診受診歴別に集計しているか ^{注1)}	×	×	×	×	○
(2) 精検未把握率を把握しているか ^{注2)}	×	×	×	×	×
5. 精密検査結果の把握					
※肺がん検診では、全項目で「胸部 X 線受診者・喀痰細胞診受診者」別に把握・集計できていれば○					
(1) がん発見率を把握しているか	○	○	○	○	○
(1-1) がん発見率を性別・年齢階級別に集計しているか	○	○	○	○	○
(1-2) がん発見率を市町村別に集計しているか	○	○	○	○	○
(1-3) がん発見率を検診実施機関別に集計しているか	×	×	×	×	×
(1-4) がん発見率を受診歴別に集計しているか ^{注1)}	×	×	×	○	○
(1-5) がん発見率を検診方法別(マンモグラフィ・視触診)に集計しているか	/	/	/	○	/
(2) 発見がんに対する早期がん割合 ^{注3)} を把握しているか	○	○	○	×	/
(2-1) 粘膜内がん(胃がん、大腸がん)・非浸潤がん(乳がん)を区別しているか	○	○	/	×	/
(2-2) 早期がん割合を性別・年齢階級別に集計しているか	×	×	×	×	/
(2-3) 早期がん割合を市町村別に集計しているか	×	×	×	×	/
(2-4) 早期がん割合を検診実施機関別に集計しているか	×	×	×	×	/
(2-5) 早期がん割合を受診歴別に集計しているか ^{注1)}	×	×	×	×	/
(2-6) 早期がん割合を検診方法別(マンモグラフィ・視触診)に集計しているか	/	/	/	×	/

(2-7) 子宮頸がん検診で、発見がんに対する上皮内がん ^{注4)} 割合を把握しているか						○
(2-7-1) 子宮頸がん検診で、上皮内がん割合を年齢階級別に集計しているか						×
(2-7-2) 子宮頸がん検診で、上皮内がん割合を市町村別に集計しているか						×
(2-7-3) 子宮頸がん検診で、上皮内がん割合を検診実施機関別に集計しているか						×
(2-7-4) 子宮頸がん検診で、上皮内がん割合を受診歴別に集計しているか ^{注1)}						×
(2-8) 子宮頸がん検診で、発見がんに対する微小浸潤がん割合を把握しているか ^{注5)}						○
(2-8-1) 子宮頸がん検診で、微小浸潤がん割合を年齢階級別に集計しているか						×
(2-8-2) 子宮頸がん検診で、微小浸潤がん割合を検診機関別に集計しているか						×
(2-8-3) 子宮頸がん検診で、微小浸潤がん割合を受診歴別に集計しているか						×
(3) 陽性反応適中度を把握しているか	○	○	○	○	○	○
(3-1) 陽性反応適中度を性別・年齢階級別に集計しているか	○	○	○	○	○	○
(3-2) 陽性反応適中度を市町村別に集計しているか	○	○	○	○	○	○
(3-3) 陽性反応適中度を検診実施機関別に集計しているか	×	×	×	×	×	×
(3-4) 陽性反応適中度を受診歴別に検討しているか ^{注1)}	×	×	×	×	○	○
(3-5) 陽性反応適中度を検診方法別(マンモグラフィ・視触診)に集計しているか					○	
(4) 発見がんについて追跡調査を実施しているか	×	×	×	×	×	×
	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん	
(4-1) 発見がんの追跡所見・病理所見について把握しているか	×	×	×	×	×	×
(4-2) 発見がんの予後調査(生存率・死亡率の分析など)を実施しているか	×	×	×	×	×	×
解説:この項目は、現在のがん部会の体制では容易でない都道府県も多いが、がん検診の精度管理という点から言えば必要である						
6. 偽陰性例(がん)の把握						
解説:以下の3項目は、現在のがん部会の体制では容易でない都道府県が多いが、がん検診の精度管理という点から言えば本来は必要である						
(1) 受診者の追跡調査や地域がん登録等により検診受診後のがんを把握しているか	×	×	×	×	×	×
(2) 検診受診後の偽陰性例※を把握しているか	×	×	×	×	×	×
※検診受診時には陰性であったが、その後次回の検診までに、検診以外で発見されたがん (基本的には1年未満に発見された胃がん・大腸がん・肺がん、2年未満に発見された乳がん・子宮頸がん)						
(3) 検診受診後1年以上経過してから発見された胃がん・大腸がん・肺がん、2年以上経過してから発見された乳がん、子宮頸がんを把握しているか※	×	×	×	×	×	×
※今回の受診後、規定された次回の検診(基本的には、胃・大腸・肺がん検診は1年後、乳・子宮頸がん検診は2年後)を受けずに、検診以外で発見されたがん						
7. がん登録への参加						
(1) 地域がん登録を実施しているか(H23年時点で実施していなければ×、以下3項目も同様)	○	○	○	○	○	○

(2) 地域がん登録に対して、症例を提供しているか	×	×	×	×	×
解説: がん部会が直接提供しなくとも検診機関あるいは精密検査機関が地域がん登録に検診発見がん例を提供していることを確認できれば○、確認できなければ×					
(3) 偽陰性例の把握のために、地域がん登録のデータを活用しているか	×	×	×	×	×
(4) 予後の追跡のために、地域がん登録のデータを活用しているか	×	×	×	×	×
8. 不利益の調査					
解説: 以下 4 項目は次のいずれかの場合に○とする					
・厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」の「偶発症の有無別人数」欄に全ての市区町村のデータを集計している					
・主要な医療機関(精密検査を担当する機関)に、検診発見例の精査・治療における偶発症を報告してもらうための依頼文書※を送付し、その後報告されたものを集計している (依頼文書の雛形をご入用の場合は事務局までご連絡ください)					
(1) 検診受診後 6 ヶ月(1 年)以内の死亡者を把握しているか	○	○	○	○	○
解説: 精密検査あるいは治療での偶発症によるもの。ただし、原疾患の悪化によるものは除く					
(2) 精密検査による偶発症を把握しているか	○	○	○	○	○
解説: 軽微なものを除く。概ね 1 週間以上の入院治療を要するもの(胃・大腸・肺がん)、入院治療を要するもの(子宮頸・乳がん)					
(2-1) 消化管穿孔例(胃がん)、腸管穿孔例(大腸がん)、精密検査に伴う気胸や感染症(肺がん)、治療が必要な中等度以上の出血例(乳がん・子宮頸がん)を把握しているか	○	○	○	○	○
	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
(2-2) その他の重要な偶発症※を把握しているか	○	○	○	○	○
※輸血や手術が必要な消化管出血等(胃がん・大腸がん)、穿刺細胞診や組織診による感染や疼痛等(乳がん)、感染症等(子宮頸がん) / 概ね 1 週間以上の入院治療を要するもの(胃がん・大腸がん・肺がん)、入院治療を要するもの(子宮頸がん・乳がん)					
9. 事業評価に関する検討					
(1) チェックリストに基づく検討を実施しているか	○	○	○	○	○
(1-1) 個々の市町村のチェックリストについて把握・検討しているか	○	○	○	○	○
(1-2) 個々の検診実施機関のチェックリストについて把握・検討しているか	○	○	○	○	○
(2) 要精検率等のプロセス指標に基づく検討を実施しているか	○	○	○	○	○
(2-1) プロセス指標について、全国数値との比較や、各市町村間、検診実施機関間でのばらつき確認等の検証を実施しているか	○	○	○	○	○
(2-2) プロセス指標において問題が認められた市町村から、聞き取り調査等を実施しているか	○	○	○	○	○
(2-3) プロセス指標において問題が認められた検診実施機関から、聞き取り調査等を実施しているか	×	×	×	×	×
(3) チェックリストやプロセス指標において問題が認められた検診実施機関に対して、実地による調査・指導等を実施しているか	×	×	×	×	×
解説: 聞き取り調査だけで十分改善が期待できる場合には、(十分な改善が期待できない場合に実地調査・指導を行う体制ができていれば)実際に実地調査・指導を行ってなくても○でよい。					

(4) 実地調査等により不適正な検診実施機関が認められた場合には、市町村に対して委託先の変更を助言するなど、適切に対応しているか	×	×	×	×	×
10. 事業評価の結果に基づく指導・助言					
(1) 事業評価の結果に基づき、指導・助言等を実施しているか	○	○	○	○	○
(1-1) 事業評価の結果を報告書に取りまとめ、市町村や検診実施機関に配布しているか	×	×	×	×	×
(1-2) 事業評価の結果について、市町村や検診実施機関に対する説明会を開催しているか	×	×	×	×	×
(1-3) 事業評価の結果に基づき、市町村や検診実施機関に対して個別の指導・助言を実施しているか	○	○	○	○	○
(2) 事業評価の結果を、個別の市町村や検診実施機関の状況も含めて、ホームページ等で公表しているか	○	○	○	○	○

注 1) 初回受診者及び逐年検診受診者等の受診歴別：初回受診者の定義は、過去 3 年に受診歴がない者（胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん）、前年に受診歴がない者（肺がん）

注 2) 未把握は、精検受診の有無が分からないもの。および（精検受診したとしても）精検結果が正確に分からないもの全て

注 3) 肺がん：臨床病期 I 期がん割合、乳がん：臨床病期 I 期までのがん割合

注 4) 上皮内がんは、がんが子宮頸部の上皮内のみにとどまるもの（H23 年度実施例では集計に CIN 分類は用いられていないため、上皮内がんと診断されたものについて記載して下さい）

注 5) 微小浸潤がんは病期 I a1 および I a2 期のもの